



## 地域の力を学校に～『匠の活用』

12月6日(火)に、第3回の学校運営協議会を行いました。当日は、委員の皆様、『田代っ子にこにこウォークラリー』の参観も行っていただきました。日頃の学びのまとめを見ていただいたり、6年生を中心に縦割り班で和やかに活動する様子を見ていただいたりしました。



今回の協議会では、主に来年度の活動について、協議をさせていただきました。(第2号にも掲載していましたが)子どもた

ちの学びに地域の皆様のお力をかりて、より充実を図ることができれば、と考えています。例えば、生活科の学習の伝承遊びをする時に、学校の職員だけでは経験不足で十分に教えられなかったり、町探検や史跡学習で、田代の町について詳しい説明ができなかったりすることもあります。そういう場面で、地域の方にお手伝いをいただくと、子どもたちは、より楽しく学びを深めることができると思います。コロナ感染症の関係で、行くことが難しくなっていた大豆から育てる豆腐作りも、来年度は再び行う方向で考えています。まちづくりセンター長様からは「田代には、野菜作りやミシンなどの裁縫が得意な方がたくさんいらっしゃいます。『匠(たくみ)の活用』ということ考えていますので、どうぞ地域へお声がけください。」と、大変心づよいお言葉をいただいています。伝統のよさ・田代のよさが受け継がれていくように、来年度に向けて、活動を計画し、是非ひとつでも多くの学校と地域との交流の場をもつことができればと思っています。

また、地区懇談会のことも話題に挙がりました。感染症予防や場所の設定等の関係で、ここ数年は思うように開催ができていないのですが、「保護者の方と地域の方が、お互いに顔を見ながら、子どもたちのことを話せる場があるというのは、やはりとても大事ですね。」という声もありました。実施の方法や取り上げる内容、場所の確保などを、もう少し各地区の皆様の要望・実情に寄せて、子どもたちのために有意義な会ができるように、今後またPTAの役員の方々とも検討をしていきます。

## 「行ってきます(๑)！」の後の安全は 地域に守られています

『朝、お子様が家を出られた後、どのように学校までたどりついているのでしょうか…?』

ご存知のように、朝の登校時には、交通指導員の方々、民生委員の方々をはじめ、地域のたくさんのボランティアの皆様に見守りをいただいています。子どもたちが登校する時間帯は、交通量も多くなり、急いでいる車もたくさんあります。歩道にまではみ出して離合をしようとする車もたまにあるそうです。登校班の班長さんを中心に、きちんと列をつくって登校している子どもたちですが、やはり注意が散漫になってしまうこともありますし、注意をしても避けられない危険が迫ってくることもあります。そんなときに、地域の方々が「あぶないよ。」「ここで止まって待とうね。」「歩道橋で走ったら危ないから、歩いて行こうね。」などのお声掛けをしてくださったり、時には、直接ドライバーさんに注意を促してくださったり、子どもたちが安全に学校に到着するまでに、実に多くの方の力をいただいています。また、安全面だけでなく、「おはよう!いってらっしゃい。」「今日は～だね!」など、温かい挨拶や言葉を、一人ひとりに丁寧に掛けてくださっています。地区の子どもたちのことをちゃんと知ってもらっているので、登校班と一緒に来ない子どもがいると、心配をせずと待ってくださったり、通学路を確認してもらったりもしているようです。そのような場面を見ると、ほんとに守ってもらっているな…、と実感します。ただ、今はそのように安心して登校できる環境をつくってもらっているのですが、見守っていただいている地域の方々にはご高齢の方も多く、今後、今と同様の状況が続いていくことが難しくなることも予想されます。子どもたちを守る『地域の力』を絶やさないためにも、学校・保護者・地域で、もう一度考える時期にあるのかもしれませんが。天気の悪い日も、暑さや寒さが厳しい日も、毎日欠かさず子どもたちを見守ってくださっている地域の方々、感謝申し上げます。ありがとうございます。

